

人型シールによる対人関係表現に関する研究

目白大学大学院心理学研究科 住沢佳子
目白大学人間学部 福島脩美

【要約】

人型シールは、十分な面接時間がとれずとも質的に低下せず、圧迫感を与えない方法でクライアントの対人関係や対人距離感を知ることを目的とし、主に学生相談の中でタックシール(住沢, 2002), HRシール(Human Relation seal)(住沢, 2003), そして人型シールと徐々に形を変えて導入されてきた。

本研究は、クライアントによって認知された対人関係を的確に査定するため、また面接の話題を具体化する道具としても活用することを目的に開発するものである。本稿は人型シール開発のための一連の研究の1つとして人型シール同士の方向、距離、大小、上下について調べた。調査方法としては、大人と子供、好きな相手、過小評価、支配的、味方、板ばさみなどを含む事例を参加者が人型シールで表現し、表現された人型シールから、方向、距離、大小、上下の特徴を調べた。その結果、たとえば互いに好意を持つ関係を表現する場合、2人を向かい合わせに貼るという表現もあるが、近くに貼ることで表現されること、つまり、方向と距離の表現の関係が明らかになった。大小に関しては大人と子供の表現の他に大きく感じる人には大、小さく感じる人には小の人型シールが使用されることがわかった。また上下に関しては立場の強い人が上、立場の弱い人が下に貼られる傾向がみられた。また、貼られた人型シールに漫画の描き込みが多く見られ、人型シールによるクライアント理解に新たな側面を見出すことができた。

キーワード：人型シール、対人関係におけるアセスメント、クライアント理解、道具

【問題と目的】

カウンセリングという臨床現場における問題解決に役立つ道具には、箱庭(河合, 2002)やコラージュ(杉浦, 1994, 住沢, 2003), 絵画(田中, 2004), FIT(亀口, 2003)など様々なものがあり、それらはアセスメントやカウンセリングの促進として活用されてきた。

本研究の目的は、カウンセリングという臨床現場においてクライアントの抵抗や違和感を最小限にとどめ、可能な限りの確に自分の対人関係をカウンセラーに伝達できる道具を開発することである。倉光(2004)は一般的なセッションの時間は、初回面接が1時間半から2時間、

その後のセッションは1回50分から1時間で行われることが多いと述べているが、筆者の勤務校ではカウンセリングの希望者が多く、十分な面接時間が保障されない状態であった。このように限られた時間の中で人型シールは、考案されたものである。

人型シールは、人の形をしたシールで、十分な面接時間がとれない場合でも質的に低下せず、クライアントに圧迫感を与えない方法で対人関係や対人距離感にアプローチすることを目的とし、主に学生相談の中でタックシール(住沢, 2002), HRシール(Human Relation seal)(住沢, 2003), 人型シール(住沢・福島, 2005・

2006・2007)と徐々に形を変えながら導入されてきた。これらの研究を通して明らかになった点は、①クライアントの対人関係について話題にしやすい、②クライアントの家族関係をカウンセラーと共有できる、③カウンセラーとクライアントが対人関係を客観的に共有できる、といったことである。また、人型シールを導入した際、多くのクライアントは興味を示し、家族や友人、アルバイトなどの対人関係についての会話が促進された。このように人型シールは、インタビュー面接の時間短縮やクライアント理解の為に考案され、クライアント自身の気づきや、カウンセラー-クライアント間の対人関係についての新たな共通認識が生まれることも報告されてきた(住沢, 2004)。

本研究は、クライアントによって認知された対人関係を的確に査定するため、また面接の話題を具体化する道具としても活用することを目的に開発するものである。その開発にあたり、人型シールのもつ基礎的性質を調べることで、その方法の一つとして、臨床現場で話題になりやすい2つの事例の概略を参加者に提示し、その対人関係を人型シールで表現するよう求め、参加者がどのように配置するかを調べる、といった実験的調査研究について報告するものである。なお、本研究は本来、1)事例を人型シールで配置する、2)配置された人型シールを物語で表現する、という二つの関連する調査から構成されたものであるが、本稿では紙面の関係で「事例を人型シールで配置する調査」のみを報告する。

人型シール作成にあたっては、①男女の区別がつくもの、②前後、右向き、左向きを表現できるもの、③大、小の区別がつくものという基準で作成し、大きい男性をイメージしやすい人型シールをM、小さい男性をイメージしやすい人型シールをm、大きい女性をイメージしやすい人型シールをF、小さい女性をイメージしやすい人型シールをfとした。また、正面と後姿をイメージしやすい人型シールには前後をつけ、M前後、m前後、F前後、f前後と表示した。また、M、m、F、fのそれぞれの右向きの人型シールには右をつけM右、m右、F右、f右と表示した。また、左向きの人型シールに

は左をつけ、M左、m左、F左、f左と表示した。従って、M、m、F、fはそれぞれ前後、右、左からなり、合計12体の人型シールで表現される(Figure 1)。

〔予備調査〕

1. 目的

学生相談における臨床でとりわけ対人関係を主訴とするクライアントを対象にタックシール(住沢, 2002)やHRシール(住沢, 2003)などの道具を導入したところ、距離、大小、配置にいくつかの特徴的な傾向が見られた。これらの臨床経験から、好意を寄せる人には顔や体を相手に向け、苦手な相手には背中を向ける、好きな相手には近づき、苦手な相手からは遠ざかる、大人は大きい人型シール、子供は小さい人型シール、上司は上、部下は下、と表現されることが想像できる。しかし、このような感じ方は、人によって異なる可能性がある。そこで経験的に予測される傾向を人型シールを使用した場合、どの程度表現されるのか調べることにした。

2. 方法

予備調査は、都内心理学研究科の大学院生10人を対象に実施した。参加者は、後の本調査の事例に入れる7つの状況の、①好き嫌い、②信頼関係、③大人と子供、④過小評価、⑤支配関係、⑥味方、⑦仲裁役を人型シールで表現した。7つの状況はさらに細かく場面設定され、参加者は、例えば方向に関しては、相思相愛、夫が妻に関心あり、妻が夫に関心あり、夫婦互いに無関心、距離に関しては、信頼関係、不信感、大小に関しては、父親と娘、母親と息子、過小評価(男性・女性)、上下に関しては、支配的、命令的、三者関係では、味方、板ばさみなど、14の場面をそれぞれの用紙(A4×14)に貼った。その際、人型シールは、参加者が自由に必要な枚数を選ぶこととした。

3. 結果

①好きか嫌いかに関しては、方向だけではなくシールの遠近でも表現される。②信頼する場合は近くに、または向かい合わせに、信頼しな

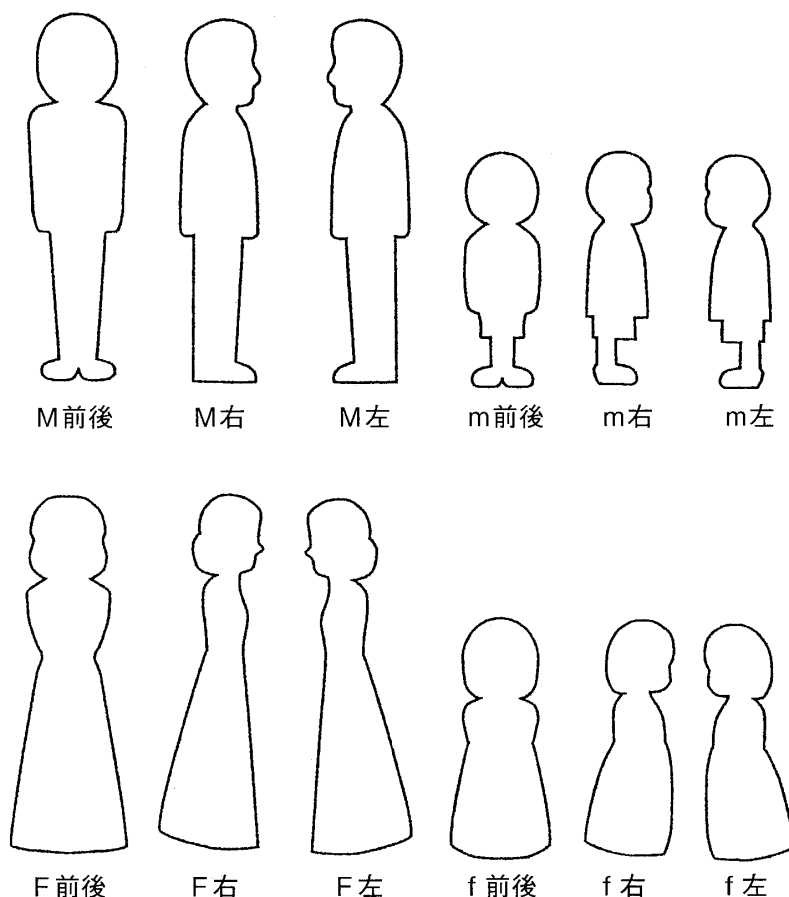


Fig. 1 人型シール12体

大きい男性をM, 小さい男性をm, 大きい女性をF, 小さい女性をfとし, 正面と後姿をイメージしやすい人型シールには前後, 右向きには右, 左向きには左をつけた。

い場合は遠くに, または背中合わせというように, 遠近, および方向で表現される。③大きいシールは大人, 小さいシールは子供として表現される。④過小評価は小さいシールで, または下に配置されるというようにに大小, および上下で表現される。⑤支配する者は上, 支配される者は下に配置される。⑥味方は, 相手の近くに配置される。⑦仲裁役, 板ばさみの状態は, 対立する2人の間に配置される。

〔本調査〕

予備調査の結果から, 方向, 距離, 大小, 上下に関してある程度の傾向が明らかになった。本調査では, その結果を参考に臨床現場で話題になりやすい2つの事例の概略を参加者に提示した場合, 人型シールの方向, 距離, 大小, 上下で対人関係を表現できるか調べるものである。

〔方法〕

1. 調査参加者

調査参加者は, 関東圏のT大学に所属する68名(女性, 大学1, 2年生)で, T大学の教室内で実施した。

2. 調査内容

あらかじめ方向, 距離, 大小, 上下の配置が表現されやすい2つの事例を実験者が作成し, 参加者はその事例を12枚の人型シールから選び, 配置し, 糊付けするという方法をとった。教室内の参加者に2種類の事例を配布することで2群に分け, 集団個人法で実施した。

1群は, 方向・距離・大小(過小評価)・上下(過小評価)を含む内容を作成し, あき子の事例(以下, 事例1)とした。その際, ①好きな方に顔を向けるか(方向), ②好きな者を近くに貼る

か（距離），③相手より劣位（大小），④相手より劣位（上下）の調査とした。参加者は38名であった。2群は，上下，大小（大人，子供），味方，板ばさみを含む内容を作成し，はる男の事例（以下，事例2）とした。その際，①上下の配置から支配的・権力的な関係（上下），②子供には，小さいシール（m，f）を使用するか（大小），③味方する相手に寄せるか（遠近），④仲裁役，板ばさみ（遠近）の調査とした。参加者は30名であった。

3. 調査手順

参加者に人型シールのセット（12枚），ステイックのり，台紙1枚（A4）を配布し，「これは人型シールの道具を使って対人関係を表現するとしたら，どのような人型シールが，どう配置されるかを調べるものです。事例のクライアントが述べたことやその状況をあなたは，人型シールを使ってどのように表現しますか？ 人型シールの紙片を紙の上で動かしてみてください。クライアントの気持ちにぴったり合うと思ったら，のりで貼り付けてください。貼り付いたら，各人型シールの下に誰を表しているのか記入してください（例：あき子，父親，娘など）。前後の人型シールには前，後を書いてください。顔や髪を描きこんでもかまいません。配置に正解はありませんので，自分の感じるままに作成してください。12枚の紙片すべてを使う必要はありません」と教示を与えた。参加者は，配られたA4の用紙の上で人型シールを動かし，各々が事例からイメージする状況を人型シールで配置した。納得のいくように配置できたところで用紙に貼り付け，事例の登場人物を記入し，最後に人型シールに顔や洋服の漫画を描きこんだ。作業の後，質問紙に感想などを記入して終了した。全所要時間は30分であった。

4. 事例内容

1) 事例1

クライアント：あき子（19歳，大学1年生），
主訴：人とうまくかかわれない。

『私はあき子です。私は中学生の時，いじめにあいました。それ以来，表面では笑っていても心から人を信じることができません。私は自分

のスタイルや顔なども，人より劣っていると思います。私は今，吹奏楽部に入っています。この部活で私はA君にあこがれています。でもA君はBさんと相思相愛でいつも楽しそうに話しています。私は自分にとりえがないし，A君は私に振り向いてくれません。Bさんは，明るく元気で人から好かれる人です。部活の中にC君という人がいるのですが，C君はBさんのことが好きだけれど，片思いといううわさです。私は，誰からも好かれるBさんがうらやましいです。だから，Bさんに比べると自分がとてもみじめになります。』

2) 事例1の調査項目

①A君とBさんの方向，②A君とBさんの距離，③あき子とA君の方向，④あき子とA君の距離，⑤あき子とBさんの向き，⑥あき子とBさんの大小，⑦あき子とBさんの上下，⑧あき子とBさんの距離，⑨C君とBさんの向き，⑩C君とBさんの距離

3) 事例2

クライアント：はる男（38歳，会社員），
主訴：家族関係

家族構成：父親（70歳），母親（67歳），妻（35歳），娘（7歳），息子（4歳），本人。

『私は，はる男です。私の家は3世代同居です。私の両親は，私が子供の頃からしつこく厳しく，私は未だに父親には頭が上がりません。父親は仕事のことしか頭にない人で，両親は仲良くありません。私は8年前に結婚し，娘（7歳）と息子（4歳）がいます。妻と母親は仲が悪く，私はいつも2人の仲裁役です。けれども，母親の意見が強いので，つい妻に我慢するように言ってきました。そんな中で妻は私にも愛想をつかしたようで子供を連れて別居すると言いだしました。娘（7歳）は，口うるさいおばあちゃん（はる男の母親）が嫌いで妻の味方になります。息子（4歳）はお姉ちゃん（7歳）のことが好きで，いつもお姉ちゃんにくっつきまわっています。私は，母親の気持ちも分かるし，妻との別居は寂しいので困っています。』

4) 事例2の調査項目

はる男と父親の上下，②はる男と父親の距離，③はる男と母親の上下，④はる男と母親の距離，⑤はる男と妻の方向，⑥はる男と妻の距

離, ⑦妻と母親の方向, ⑧妻と母親の距離, ⑨妻と娘の方向, ⑩妻と娘の距離, ⑪娘の大小

なお, 調査においては便宜上, 人型シールと同じサイズの人型紙片を糊付けしたが, 以下の結果および考察では, 人型シールと表示する。

5. 分析方法

1) 方向

→は人型シールのM右, F右, m右, f右を示し, ←は, M左, F左, m左, f左を示し, ○は人型シールのM前後, F前後, m前後, f前後を示すものとし, 事例における登場人物がどちらの方向で表現されているかを参加者の出現率から分析する。また, 前後の人型シールの表示は○の中に頭文字を入れて示す(例: A君の前後の場合④)。

2) 距離

それぞれの人型シールの頭部に中心点を定め, 参加者が表現した人型シールの中心点と中心点の距離を測定する。測定には, 筆者以外に心理学研究科の院生4名が同様の測定をし, 筆者の測定した距離との相関を見るため平均値と標準偏差を出す。

3) 大小

事例における登場人物が, 大きい人型シールであるM前後, M右, M左, F前後, F右, F左, および小さい人型シールであるm前後, m右, m左, f前後, f右, f左のどれで表現されているかを参加者の出現率から分析する。

4) 上下

事例における登場人物の様々な2者関係において, その上下を調べ参加者の出現率から分析する。

[結果]

1. 人型シールの方向について

①A君とBさん: 相思相愛 (N = 36)

A君にM右, M左, m右, m左など左右の人型シールを使用し, BさんにF右, F左, f右, f左の人型シールを使用して2枚の人型シールを向かい合わせに貼った人は, 36人中23人で63.9%であった(→←)。A君にM右, M左, m右, m左など左右の人型シールを使用し, BさんにF前後, f前後の人型シールを使用し, A

君がBさんに向けて貼った人は5人で13.9%であった(→⑥, ⑥←)。ついでA君にM前後, m前後を使用し, BさんにF前後, f前後の人型シールを使用し, 2枚を近くに並べて貼った人は7人で19.4%(④⑥ ⑥④)であった。

②あき子とA君: 自尊感情の低いあき子の片思い (N = 36)

あき子にF前後, f前後の人型シールを使用し, A君にM右, M左, m右, m左など左右の人型シールを使用し, あき子と逆方向に向けて貼った人は, 36人中12人で33.3%であった(⑥→, ←⑥)。ついでA君にM右, M左, m右, m左の人型シールを使用し, あき子に背を向けて貼り, あき子にはF右, F左, f右, f左の人型シールを使用してA君に向けて貼った人は, 10人で27.8%であった(←←, →→)。また, あき子にF右, F左, f右, f左のいずれかを使用し, A君にM前後, m前後のいずれかを使用して, あき子がA君に向かうように貼った人は, 7人で19.4%であった(→④, ④←)。

③C君とBさん: 同世代の片思い (N = 36)

C君にM右, M左, m右, m左のいずれかを使用し, BさんにF右, F左, f右, f左のいずれかを使用してC君がBさんに向くように貼り, BさんはC君に背を向けて貼った人は, 18人で50%であった(←←, →→)。C君にM右, M左, m右, m左のいずれかを使用し, BさんにF前後, f前後のいずれかを使用し, C君がBさんに向かうように貼った人は13人で36.1%であった(→⑥, ⑥←)。

④はる男と妻: 親に頭の上がらない夫と, 夫に愛想をつかした妻 (N = 29)

はる男にM前後, m前後を使用し, 妻にF右, F左のいずれかを使用して, 妻がはる男に背を向けて貼った人は18人で最も多く62.1%であった(④→, ←④)。また, 妻にF右またはF左のいずれかを使用してはる男に背を向け, はる男にM右, M左のいずれかを使用して, 妻に向けて貼った人は3人で10.3%であった(←←, →→)。従って, はる男の人型シールによる表現は異なるが, 妻がはる男に背を向けて貼った合計は72.4%となった。しかし, はる男にM前後, m前後のいずれかを使用し, 妻にF右, F左のいずれかを使用してはる男に向けて貼った人も

いた (20.7%) (㊦←, →㊦)。

⑤妻と母親：嫁姑の対立する関係 (N = 30)

妻にF右, F左のいずれかを使用し, 母親にF右, F左のいずれかを使用して, 互いに背を向けて貼った人は17人 (56.7%) (←→), 妻にF右, F左のいずれかを使用し, 母親にF前後を使用して母親に背を向けて貼った人は5人 (16.7%) で, 合計すると73.4%であった。しかし, 妻にF右, F左のいずれかを使用し, 母親にF右, F左のいずれかを使用して戦う表情を加え, 向かい合わせに貼った人は4人で13.3%であった (→←) (Figure 2)。

⑥妻と娘：妻に味方する娘 (N = 30)

妻にF右, F左のいずれかを使用し, 娘にF左, f右, f左のいずれかを使用し向かい合わせに貼った人は11人で36.7%であった (→←)。

また, 妻にF右, F左のいずれかを使用し娘に背を向け, 娘にf右, f左のいずれかを使用し妻に向けて貼った人は10人で33.3%であった。味方は, 相手の方に向けることで表現された (70.0%)。また娘にm前後, f前後のいずれかを使用し, 妻にF右, F左のいずれかを使用して, 妻が娘に向かうように貼った人は5人で16.7%であった (㊦←, →㊦)。

2. 人型シールの距離について

事例1における距離に関しては, A君とBさん, あき子とA君, あき子とBさん, C君とBさんの距離をそれぞれ測定した。筆者による各距離の測定値と協力者 (院生) の測定値との相関をとったところ, rは0.99であった。よって, 筆者の測定に信頼性を認めることができる。

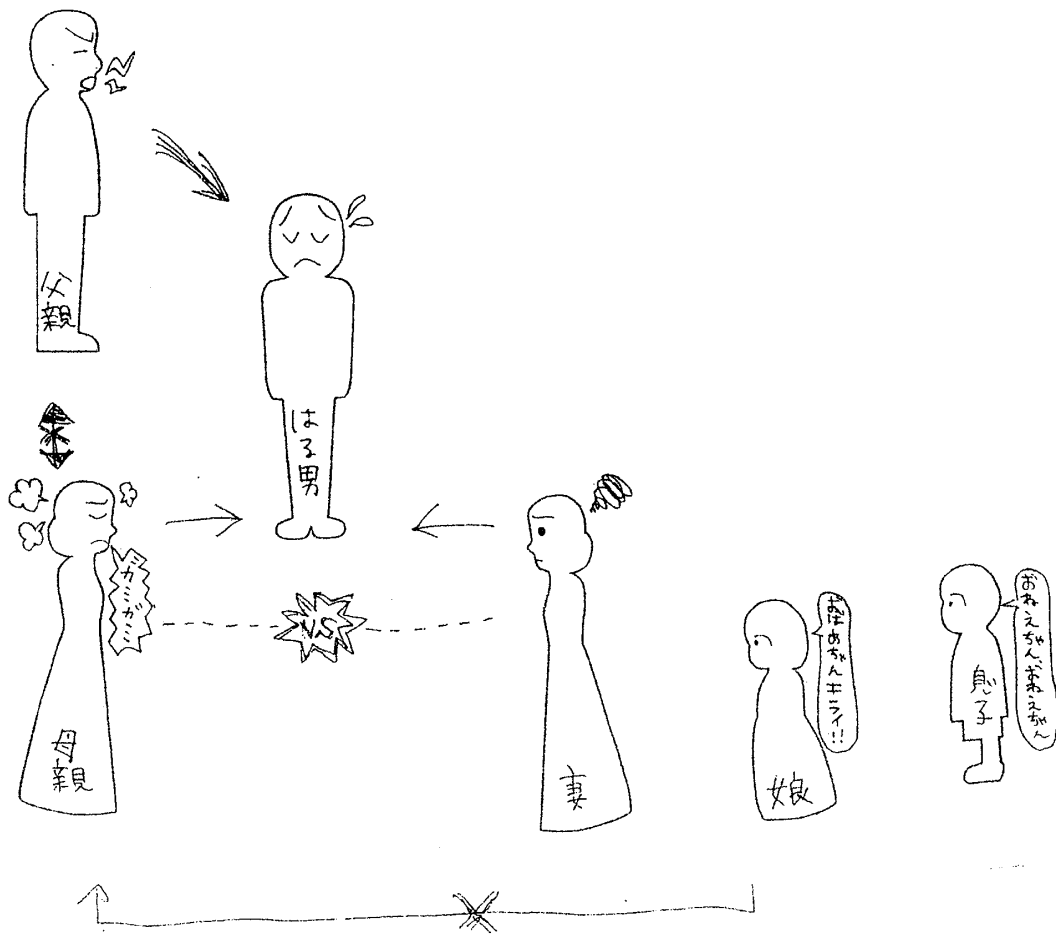


Figure 2 事例2の妻と母親が戦う姿勢
仲の悪い妻と母親 (嫁姑) が面と向かって戦う表現

Table 1 事例1 関係の違いによる距離の比較

	A君とBさん		あき子とA君		あき子とBさん		C君とBさん		F値	多重比較
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
距離	41.44	13.67	123.00	40.77	138.59	33.65	82.38	27.78	93.50**	あき子とA君>A君とBさん* あき子とA君>C君とBさん* あき子とBさん>A君とBさん あき子とBさん>あき子とA君* あき子とBさん>C君とBさん* C君とBさん>A君とBさん*

p<. 05* p<. 01**

Table 2 事例2 関係の違いによる距離の比較

	はる男と父親		はる男と母親		はる男と妻		妻と母親		妻と娘		F値	多重比較
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
距離	107.45	29.73	75.47	22.59	83.28	42.70	131.53	45.62	46.58	15.82	35.40**	はる男と父親>はる男と母親* はる男と父親>妻と娘* はる男と母親>妻と娘* はる男と妻>妻と娘* 妻と母親>はる男と母親* 妻と母親>はる男と妻* 妻と母親>妻と娘*

p<. 05* p<. 01**

関係性の違いにおける人型シールの距離について検討した。距離の長さを従属変数として繰り返しのある1要因分散分析を行った結果、4水準の距離において1パーセント水準で有意であった ($F(3, 105) = 93.5, p < .01$)。

多重比較を行ったところあき子とA君の距離 (123.0mm, 標準偏差40.77) は、A君とBさんの距離 (41.44mm, 標準偏差13.67), C君とBさんの距離 (82.4mm, 標準偏差27.8) より有意に大きかった。あき子とBさんの距離 (138.6, 標準偏差33.65) は、A君とBさん, あき子とA君, C君とBさんの距離より有意に大きかった。C君とBさんの距離は、A君とBさんの距離より有意に大きかった (Table 1)。

事例2における距離に関しては、はる男と父親, はる男と母親, はる男と妻, 妻と母親, 妻と娘の距離をそれぞれ測定した。30名が貼ったそれぞれの距離を筆者が測定し, 協力者 (院生) も同様の測定をした。筆者と協力者 (院生) の測定値の相関をとった結果, r は0.99であった

ので, 筆者が測定した距離に信頼性があると言える。(Table 2)。

事例2における距離に関して, 関係性の違いにおける人型シールの距離について検討した。距離の長さを従属変数として繰り返しのある1要因分散分析を行った結果, 5水準の距離において1パーセント水準で有意な効果が見られたところ ($F(4, 116) = 35.4, p < .01$)。多重比較を行ったところはる男と父親の距離 (107.5mm, 標準偏差29.73) は, はる男と母親の距離 (75.5mm, 標準偏差22.59) 及び, 妻と娘の距離 (46.6mm, 標準偏差15.82) よりも大きかった。妻と母親の距離 (131.5mm, 標準偏差45.62) は, はる男と母親の距離, はる男と妻の距離 (83.3mm, 標準偏差42.7), 及び妻と娘の距離より大きかった。また, はる男と母親の距離は, 妻と娘の距離よりも大きく, はる男と妻の距離は妻と娘の距離より大きかった。

Table 3 事例1 あき子とBさんの大小

あき子の大小	人数	出現率	Bさんの大小	人数	出現率
あき子 大	16	42.0%	Bさん 大	29	76.0%
小	22	58.0%	小	9	24.0%
	N=38	100.0%		N=38	100.0%

Table 4 事例2 娘と息子の大小

娘の大小	人数	出現率	息子の大小	人数	出現率
大	1	3.3%	大	0	0.0%
小	29	96.7%	小	30	100.0%
	N=30	100.0%		N=30	100.0%

Table 5 事例1 あき子とBさんの上下

あき子とBさんの関係	人数	出現率
あき子が上・Bさんが下	5	13.2%
Bさんが上・あき子が下	32	82.2%
並列	1	2.6%
	N=38	100.0%

Table 6 事例2 はる男と父親の上下

関係	人数	出現率
父親が上・はる男が下	28	93.3%
父親が下・はる男が上	2	6.7%
並列	0	0.0%
	N=30	100.0%

Table 7 事例2 はる男と母親の上下

関係	人数	出現率
母親が上・はる男が下	27	90.0%
母親が下・はる男が上	3	10.0%
並列	0	0.0%
	N=30	100.0%

3. 選択された大小について

事例1 (N=38) では、あき子とBさんの関係で大きい人型シール、小さい人型シールのどちらを使用したか調べた。その結果、あき子に大きい人型シールを使った人は16人で42%、小さい人型シールを使った人は22人で58%であった。Bさんに大きい人型シールを使った人は29人で76%、小さい人型シールを使った人は9人で24%であった (Table 3)。

事例2 (N=30) では、7歳の娘について大小どちらの人型シールを使うか調べた。小さい人型シールを使用したものは29人で全体の96.7%であった (Table 4)。また、4歳の息子は調査対象にはしなかったが、補足的に調べた所、参加者全員が小さい人型シールを使用し100%であった。

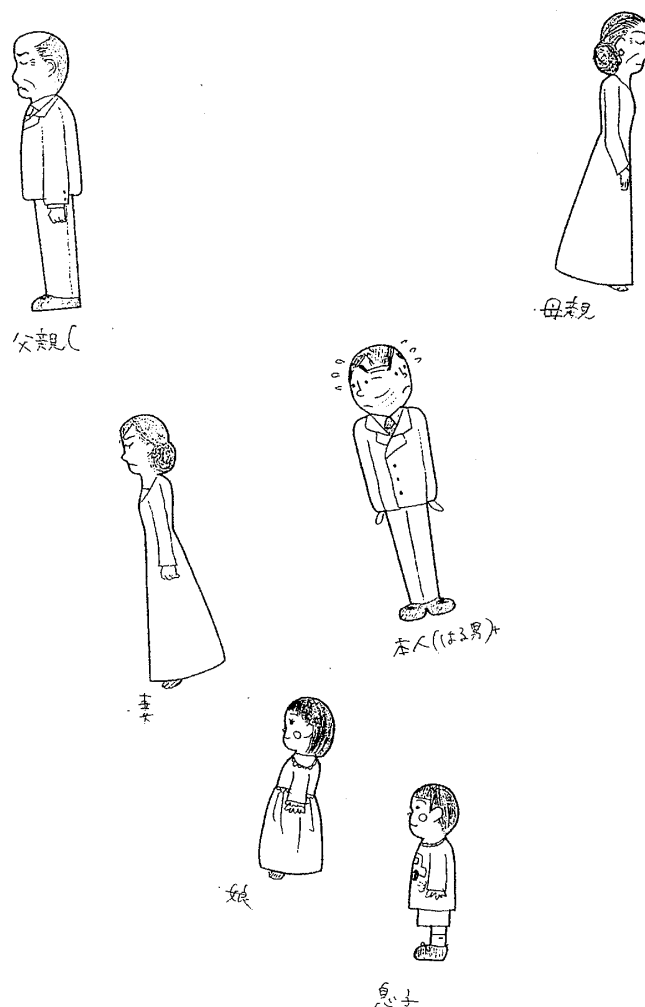


Figure 3 事例2の妻と母親の間で板ばさみ状態のはる男

4. 人型シールの位置（上下）について

事例1（N=38）では、あき子とBさんの関係における上下または並列を調べた。その結果、あき子をBさんより上に貼った人は5人で13.2%、Bさんをあき子より上に貼った人は32人で82.2%であった。あき子とBさんを並列に貼った人は1人で2.6%であった（Table 5）。

事例2（N=30）では、はる男と父親の関係における上下または並列を調べた。父親をはる男より上に貼った人は28人で93.3%、はる男を父親より上に貼った人は2人で6.7%であった。（Table 6）。はる男と母親の関係においては、母親を上貼った人は27人で全体の90%いた。父親との関係でも母親との関係でも並列に貼った人は0人であった（Table 7）。

5. 描き込みについて

事例1では参加者38人中23人（60.5%）が、事例2では参加者30人中20人（66.7%）が人型シールや台紙（A4）に漫画や文字の描き込みをした（Figure 3）。

〔考察〕

1. 人型シールの方向と距離について

対人関係における方向と距離に関しては、社会空間モデル（渋谷，1978）、図式的投影法（水島，1978）、家族関係単純図式投影法（草田，2002）、FIT（Family Image Test，亀口，2003）、対人距離の性差（青野，2003）など、様々な視点からその関係性が論じられている。

本稿では臨床現場で話題になりやすい2つの

事例を参加者に提示し、参加者が表現した人型シールの配置から、方向と距離を分析した。事例1の「相思相愛のA君とBさん」の方向を調べたところ、半数以上の参加者（63.9%）が向かい合わせに配置しており、また、向かい合わせとは限らず近距離に配置するという表現もみられた。A君とBさんの距離は近く（41.4mm）、片思いのあき子とA君の距離は、その3倍離れていた（123.0mm）。片思いのあき子が「A君は私に振り向いてくれない」という表現について、方向は一定ではないが、A君をあき子と逆方向に貼った人は80.6%であった。また、自尊感情の低いあき子にとって、Bさんは「明るく元気で人から好かれる」存在であり、この二人の距離は事例1の中で最も遠くに配置された（138.6mm）。これは、Bさんが、あき子にとってかけ離れた存在であることと重なる。片思いのC君は、Bさんに好意を寄せているというが、あき子のように自尊感情が低い表現はない。C君をBさんに向けて貼った人は、86.1%で、好意を持つ相手に体を向けることが表現されたと思われる。また、C君の片思いは、BさんとC君の距離（82.4mm）で表現され、親密なA君とBさんの距離の2倍であったことから、事例から想像される状況が人型シールで表現されたと思われる。

事例2における「はる男に愛想をつかした妻」の方向は、参加者の多くがはる男に背を向けて貼った（72.4%）。また「嫁姑の関係」の妻と母親については、妻が母親に背を向けた表現が73.4%であった。また、妻と母親の距離（131.5mm、標準偏差45.62）は、その他のそれぞれの関係の中で最も遠くに貼られた。「妻と妻に味方する娘」の表現は、娘を妻に向けてすることで表現され（70.0%）、距離も近かった（46.6mm）。これらのことから、相手に好意を寄せている場合は、人型シールをその相手に向けて貼る表現と、相手の近くに配置する表現であることがわかった。また、相手に対する嫌悪感、相手に背を向ける表現と、相手に距離をとって配置することがわかった。本間（1990）は対人距離モデルについて、距離そのものだけで単独に捉えるのではなく、「体の方向は距離と密接な関係にあり、対面か並列あるいは背中合

わせかで距離は異なる」と述べているように距離と方向が密接に関係しており、人型シールによってもそのことが表現された。

2. 人型シールの大小について

事例1の登場人物は、全員大学生である。同世代で同じ部活動をしているという条件の下であき子の自尊感情が低く想定されている。そのような場合、あき子の表現に大小どちらの人型シールを使用したかを調べた。また、同姓であるBさんとも比較してみた。その結果、あき子に小さい人型シールを使用した人が58%だったのに対し、Bさんに小さい人型シールを使用した人は24%であった。このことから小さい人型シールは、必ずしも子供を表現すると限定されず、小さく感じる人にも使用されることが分かった。事例2では、はる男にとって「頭が上がらない両親」および「はる男に愛想をつかした妻」には、大きい人型シールのみ使用された（100%）。また子供（娘7歳、息子4歳）に関しては、娘に小さい人型シールを使用した人は96.7%であり、息子に関しては100%であった。このことから、予備調査における大人には大きい人型シールを使用し、子供には小さい人型シールを使用することと一致したといえる。また、はる男は、38歳の大人であるにもかかわらず小さい人型シールで表現されることもあった（6.7%）。

以上のことから人型シールの大小に関しては、大きい人型シールであるM前後、M右、M左、F前後、F右、F左は大人に使用され、小さい人型シールであるm前後、m右、m左、f前後、f右、f左は子供に使用されることが明らかになった。しかし、対人関係において自尊感情が低く、立場が弱いといった場合にも小さい人型シールが使用されることが明らかになった。

3. 人型シールの位置について

事例1では自尊感情が低く劣等感の強いあき子が、他の登場人物と比べてどこに貼られているかを調べた。ここでは、あき子と対照的なBさんと比較した。その結果、あき子よりBさんを上に貼った人は84.2%であった。事例2で

は、父親に頭の上がないはる男が、父親との関係において父親より上下のどちらに貼られているか調べた。その結果、父親を上貼り、はる男を下に貼った人は93.3%であった。また、母親との関係においても同様に上下を調べたところ、母親を上貼り、はる男を下に貼った人は90%であった。以上の結果から、対人関係において、自尊感情が低い、劣等感が強い、立場が弱いなどの場合には、相手よりも下に貼ることがわかった。

4. 人型シールへの描き込み

「顔や髪を書きこんでもかまいません」と教示したところ、事例1では60.5%、事例2では66.7パーセントの描き込みが見られた。わずかな表情であっても人型シールに目や口を加えることで、作成した人が事例をどのように感じ取ったかが伺われた。実際の臨床現場でもこれらの描き込みから、よりの確なクライアント理解が期待できるであろう。

5. まとめ

國分(1994)は、カウンセリングとは言語的および非言語的コミュニケーションを通して、行動変容を試みる人間関係であると述べており、また、橋口(1994)は、青年期に発症しやすい対人恐怖についてRET(現在はREBT)の視点から述べ、日本の青年が欧米に比べて対人関係に問題を持ちやすい傾向にあると言及している。また、沢崎(2004)は、カウンセリングの対象のほとんどは対人関係の問題が中核にあるとしている。従って、カウンセリングにおけるクライアント理解は、クライアントの対人関係を理解することであり、その対人関係をカウンセラー—クライアント間で共有することから始まると言っても過言ではない。福島(2004)は、カウンセリングの過程はクライアントとカウンセラーとの相互作用を通してクライアントが自分の問題を探索し、自己理解を深め、問題解決を達成する過程であると述べている。従って、カウンセリングの問題解決の糸口は、クライアントの置かれた対人関係をよりの確に理解し、そして、クライアントが自分を取り巻く人間関係についてカウンセラーに受け止められる

体験こそが、カウンセリングのプロセスであると言えるであろう。

本研究は、臨床に役立つ道具の開発として始められ、本調査により人型シールによる表現で方向、距離、大小、上下の使われ方の一部が明らかになった。しかし、本稿による調査の参加者は、女子学生であった。従って、今後の研究では男性を対象にした研究が必要と思われる。

謝辞

調査にご協力いただいた院生および学生の皆様に心よりお礼申し上げます。また、丁寧な査読をしてくださった親切な査読者に感謝いたします。

【引用文献】

- 青野篤子(2003). 対人距離の性差に関する研究の展望—従属仮説の観点から— 実験社会心理学研究, 42, (2) 201-218.
- 福島脩美(2004). カウンセリング過程の通観 (福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦編 カウンセリングプロセスハンドブック) 金子書房 158-160.
- 橋口英俊(1994). 対人恐怖 思春期・青年期の臨床心理学 駿河台出版社 318-340.
- 本間道子(1990). 対人距離のイメージ (空間のイメージ特集) 数理科学, 28, 73-77.
- 亀口憲治(2003). FIT (Family Image Test) 家族イメージ法 (株) システムパブリカ
- 河合隼雄(2002). 箱庭療法入門 誠信書房
- 國分康孝(1993). カウンセリングの技法 誠信書房 3.
- 倉光 修(2004). カウンセリングの構造 (福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦編 カウンセリングプロセスハンドブック) 金子書房 20-27.
- 草田寿子(2002). 家族関係単純図式投影法—家族アセスメントの視点から— 人間科学研究 文教大学人間科学部, 24, 5-10.
- 水島恵一(1978). 実証的かつ実感的な体験研究の方法とテーマ 文教大学紀要, 12, 1-11.
- 沢崎達夫(2004). アセスメントにあったって注意したいこと (福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦編 カウンセリングプロセスハンドブック) 金子書房 118-121.

- 渋谷昌三 (1978). 図解 社会空間モデル試論 研究年報, 25, 学習院大学文学部, 157-172.
- 杉浦京子 (1994). コラージュ療法 川島書店
- 住沢佳子 (2002). 対人距離表現にタックシールを導入した試み 日本学生相談学会発表論文集 第20回大会, 122-123.
- 住沢佳子 (2003). 対人距離表現にHRシールを導入した試み 日本学生相談学会発表論文集 第21回大会, 132-133.
- 住沢佳子 (2003). 情緒不安定な学生へのコラージュを用いた長期カウンセリング カウンセリング研究, 36, 446-456.
- 住沢佳子 (2004). 転学を希望する不安性格の学生への支援 —REBTワークシート, HRシールを導入して— 日本学生相談学会発表論文集 第22回大会, 124-125.
- 住沢佳子・福島脩美 (2005). 人型シールによる対人関係表現に関する研究 日本カウンセリング学会 第38回大会発表論文集, 161-162.
- 住沢佳子・福島脩美 (2006). 人型シールによる対人関係表現に関する研究2 日本カウンセリング学会 第39回大会発表論文集, 114.
- 住沢佳子・福島脩美 (2007). 人型シールによる対人関係表現に関する研究3 日本カウンセリング学会 第40回大会発表論文集, 157.
- 田中勝博 (2004). 絵画療法によるカウンセリングのプロセス (福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦編 カウンセリングプロセスハンドブック) 金子書房 329-334.

A Study of the Perceived Interpersonal Relationship by using the “*Hitogata-seal*” (person form seal)

Yoshiko Sumizawa Mejiro University, Graduate School of Psychology
Osami Fukushima Mejiro University, Faculty of Human Sciences

Mejiro Journal of Psychology, 2008 vol.4

【Abstract】

The “*Hitogata-seal*” (person form seal) was developed as a tool of adequate assessment of perceived interpersonal relationship in the counseling situation. Also it was expected to become a interaction topic between client and counselor. This paper was one of research projects with *hitogata-seal*. Participant were given the brief description of two cases in which interpersonal relationship were presented, and were asked to express their perception by arranging of *hitogata-seals*, in direction, distance, size, and position. The results were the following : The distance was related to the direction for each other. A large seal showed a adult, and a small one expressed a child. In addition, a large seal was used also for the person whom the participant felt important or influential, and a small one as unimportant or weak. A person in strong position was arranged in upper part, and a person in weak was arranged below. A lot of cartoons were drawn on the *hitogata-seal*. This was able to find a new aspects to the client understanding with *hitogata-seal*.

keywords : *hitogata-seal* (person form seal), assessment of perceived interpersonal relationship, client understanding, counseling tool projective drawings, drawings encoding